

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	ゴルフ場（従業員）	・個人客の動向をみると、団体客や地域のコンペ等が増えつつあり、今後に期待できる。
	やや良くなる	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・3か月後はうなぎの需要が動き出す時期であるが、平年並みに暑くなれば良くなる。
		スーパー（企画担当）	・大型ショッピングセンター等の競合店の影響は引き続きあるが、品ぞろえや売価戦略、ポイントサービスの内容拡大等により、来客数アップが望める。
		家電量販店（企画担当）	・相変わらず順調な薄型テレビ、携帯電話は、今後もしばらくこの傾向が続く。一方、冷蔵庫、洗濯機等の生活家電品はあまり変わらない状況で推移する。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・梅雨前までは来客数が増加する。
		その他小売〔雑貨卸〕（総務担当）	・住宅関連業界は、少しずつではあるが上向きになりそうである。リフォーム等の見積も増えてきている。
		一般レストラン（スタッフ）	・客へのあいさつまわりで、感触が良くなっている。すぐに効果は出ないが、2、3か月後には少しずつ効果が出てくるという手応えがある。
		スナック（経営者）	・今年に入り、少しずつ来客数が増えている。この傾向は今後も続く。
		都市型ホテル（副支配人）	・大きな団体の予約が既に入っており、非常に動きが活発である。
	旅行代理店（従業員）	・6月は国内・海外とも長距離・高額商品が増えている。また、団体の動きが久しぶりに活発である。	
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街を取り巻く環境は大変厳しく、今後良くなるとは考えられない。現在の傾向が続く。
		百貨店（営業担当）	・個人の消費額の増加が見込めない。話題商品も少なく、購買意欲が向上しない。
		百貨店（販売促進担当）	・一部の富裕層や企業関連の買上はやや上昇傾向にあるが、一般消費は停滞、減速傾向にある。
		百貨店（売場担当）	・今の状況から考えると、3か月後の来客数は前年比98%前後、売上は同101%前後で推移するとみられ、今と比べて大きな変化はない。
		百貨店（営業企画担当）	・現在の顧客視点から推定すると、本質化、自然志向、健康・美容志向、体験型、時間消費等のマーケットは拡大する。また、一部の好調企業や地域、店舗と、低迷する企業や地域、店舗等で、二極化がさらに進展する。
		スーパー（経営者）	・最近の客は、イベントにはお金を使うが、通常は絞る傾向にある。この傾向が今後も続く。
		スーパー（総務担当）	・ここ数か月続いている食品中心の購買傾向は今後も続く。衣料品、住居用品は相変わらず天候に左右される状況が続く。
		スーパー（総務担当）	・客の購買力はまだまだ向上せず、今の傾向が今後も続く。
		衣料品専門店（店員）	・消費動向は変わらない。3か月後はセールの時期に入るが、まとめ買いも減っており、利幅は低く全体の利益率は良くないと思われるので、現在と変わらない。
衣料品専門店（店員）		・来客数は多いが、売上高は昨年並みの状態が続いていることを考えると、客の景気感は一楽観的ではないと感じる。もう少し景気回復を実感できたら、消費は上向く。	
衣料品専門店（総務担当）		・店頭にて大々的にヤングからミセスまでのファッションショーを開催したが、通行人は足を止めるが、店内へ客が流れ込むことは無かった。購買意欲が感じられない。	
家電量販店（店員）	・薄型テレビ等の需要が伸びているが、競合他社の動きが非常に活発になっている。また当店は商店街の中にあるが、商店街自体の集客力が低下しており、好調さを阻害する要因となっている。総じて、今後も変わらない。		
乗用車販売店（従業員）	・新型車が出る予定はあるが、あまり期待はできない。		
乗用車販売店（販売担当）	・来客数は若干増加傾向であるし、商品単価もほとんど変わらないが、販売量は増加しない。乗用車は大型商品なので、購買にはかなり慎重である。		
住関連専門店（店長）	・販売価格は上がり気味だが、客の様子は変わらない。これからも来客数が増えることはない。		

	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・5月に燃料油の仕入価格の値上げが予想されており、小売価格も値上げせざるえない。客の中には、値上げによって必要な量だけ購入する客もいるが、小売価格の変動に慣れている客もあり、販売量の大幅な増減はない。	
	高級レストラン（専務）	・鹿児島市では、今後九州新幹線の駅付近に大きな小売店や宿泊施設ができるため、競争が激しくなる。	
	その他飲食の動向を把握できる者	・新規の客がなかなか来ない。	
	タクシー運転手	・団体が増えるが個人客は増えないので変わらない。	
	タクシー運転手	・タクシー代が今月末から上がる。高齢者は少々値段が上がっても今までどおり通院等にタクシーを利用するが、一般客は今までのように使うかどうか不安である。	
	通信会社（企画担当）	・有力代理店の獲得により販売量は好調だが、販売奨励金コストが増加したため、全体としては変わらない。	
	ゴルフ場（スタッフ）	・今後ゴルフ場業界は、高単価高品質路線で行くところと、プレー代の安さをセールスポイントで運営を行なっていくところで二極化する。	
	競輪場（職員）	・発売額の上昇に反して、入場者が減っており、発売額の上昇ほど収益確保が見込めない。	
	美容室（店長）	・店の商品が少しずつ売れてはきたが、あまり変化はない。	
	美容室（店長）	・サラリーマンの賃金があまり変わっていないので、今後も変わらない。	
やや悪くなる	一般小売店〔青果〕（店長）	・今までの季節は地物の野菜が主体であったが、これから県外の野菜が中心となるため単価が上がり、売っていくのが難しくなる。また県知事の影響もあり、発送商品の主力となる完熟マンゴーの相場が去年より2、3割増しになっている。	
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・暑くなれば麦茶等の単価が低くなるため、仕事量は増えるが売上は減少する。外販による会社への注文量も、年々減少している。	
	百貨店（販売促進担当）	・近隣のショッピングセンター等との価格競争が激化し、売上が伸びていない。以前に比べて高額商品の動きが鈍くなっている。	
	スーパー（経理担当）	・競争が激しく、年々既存店ベースでの販売量の前年維持が困難になっている。	
	コンビニ（店長）	・昨年よりも観光客が少ない。	
	コンビニ（販売促進担当）	・量販店の店舗巡回で感じることであるが、今後大型のショッピングモールが何か所かできる中で、それに対する客の流動化、また消費者の特売価格に対する反応が敏感になっている。	
	高級レストラン（経営者）	・4月末からぱったり予約が途切れ、ゴールデンウィークの間は予約がほとんどない。今後はかなり厳しい。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・婚礼の取り込み次第で売上が大きく左右されるが、一般宴席のように予測が難しい。	
	観光型ホテル（営業担当）	・ゴールデンウィーク期間も2日のみ満室で、その他ウィークデーを中心に空室が目立つ状況である。この傾向が今後も続く。	
	悪くなる		
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	繊維工業（営業担当）	・当社では今の時期に新規の受注の話など全くありえなかったが、今月新しい受注がありそうであり、3か月後にはそれが実になりそうである。
		不動産業（従業員）	・不動産価格が引き続き上昇している。特に中心部で買手が多く、当面この状況が続く。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・ここ数か月の取引先の引き合い案件の堅調さ、また当社の契約増加傾向から、当面は上向き基調である。
	変わらない	家具製造業（従業員）	・この先3か月の受注量や物件情報がやや少なくなっており、今までの緩やかな景気上昇が、やや鈍化している。また、原材料の高騰や家具の輸入時のユーロ高、円安の影響が大きく、価格の引上げによる売上減少も懸念される。
		鉄鋼業（経営者）	・九州地区では、相変わらず自動車関連・半導体などの製造業が他地区から進出し、設備の新設・拡張を行っており、これらがけん引役となって物流センター・商業施設等の新規建築需要が創出されている。マンションの新築も相変わらず堅調であり、建設資材の需給はひっ迫した状態が続く。

		一般機械器具製造業（経営者）	・客から設備関係の引き合いがあまり出てこない。この傾向が今後も続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品、精密機械部品関連の加工においては、今年度の上期までは不透明な状態が続く。在庫調整、アメリカ景気の下方修正等の状況からみると、全般的な動きが鈍いためである。下半期の持ち直しに期待する。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・メーカーは非常に忙しく、受注量が急に増える等、非常に波が激しい。
		経営コンサルタント	・契約がそう増えるとは思えないし、単価も上昇するとは思えない。
やや悪くなる		食料品製造業（経営者）	・納入先の話では、数年前と比較して客単価が1～2割程度下落しているとのことである。観光を主とした客数の減少がこれ以上加速するとは考えにくい、何らかの歯止めが掛からない限り景気はやや悪くなる。
		金属製品製造業（企画担当）	・受注価格・受注量共に依然として厳しい。
		輸送業（従業員）	・荷動きが4月に入って急に悪くなっており、軽油価格も下げ止まった。厳しい状況にあり、今後もこの傾向が続く。
		金融業（営業職渉外係）	・中小企業のオーナーからは金利の上昇を懸念する声が多く、景気が良くなると感じている取引先はほとんどいない。
悪くなる		農林水産業（従業者）	・飼料価格が高騰しており、価格アップに対する補てん金が非常に枯渇してきているので、この先はますます厳しくなる。
		建設業（従業員）	・公共工事の減少に伴う民間工事の受注競争の激化で、採算面が非常に厳しくなっている。また鉄鋼等の価格上昇及び品不足、原油の高騰も懸念されるので、悪くなる。
		建設業（総務担当）	・年度末で工事が終わり、手持ち工事で細々と活動している。新規案件も月末になりやっと見積依頼が来るようになったが受注できるか不透明である。同業他社も非常に厳しい状況である。建築工事は幾らか仕事はあるが土木工事はほとんどない。
		広告代理店（従業員）	・5月初旬の受注量で判断すると、先行きは不安である。
		広告代理店（従業員）	・4月になり極端に受注金額が減少した。一過性のものなのか現時点は判断しかねるが、北九州市の小売業や不動産の受注件数が下降しているのは間違いない。ゴールデンウィークを控え、例年の受注高を期待したが6割程度の反応に終わっている。
雇用 関連	良くなる	民間職業紹介機関（支店長）	・地方企業、中小企業からの求人が増加している。新規契約の際の受注単価において、ある程度売り手側の意向が通るようになった。
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・一般企業からの派遣依頼は3月中旬から4月中旬がピークであったが、5月以降の案件は少ない。現在の傾向が今後も続く。
		職業安定所（職員）	・求職者数は3か月前から増加傾向ではあるが、季節的な要因が大きい。一方求人数は、ここ数か月大きな変動は見られず、全体的に企業活動が活発になった、あるいは人手不足が顕著であるといった動きはない。しばらくの間、このような状態が続く。
		職業安定所（職員）	・例年、補充のためのフルタイム求人数が増える時期であるが、逆に減少している。地方では景気の回復感はなく、人件費がかさむ正社員の求人を手控えている状況にあり、この傾向は短期間では改善しない。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・大手企業の求人活動は一段落すると思うが、中小企業を中心に引き続き高い水準での求人意欲が持続する。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、大型連休後は求人件数が減少する。夏休み、中元シーズンに向けての求人件数の増加を望みたい。	
悪くなる	-	-	-